金沢市立病院
地域連携室通信

スクラム

2025 秋
Vol.80

能登半島～被災された方々に心の安らぎを～
地震からもうすぐ２年

■ホスピタルギャラリー能登

令和６年１月に発生した能登半島地震からもうすぐ２年が経過しようとしておりますが、被災地は現在も復興の最中です。能登の高齢者の方にも元気に活躍してほしい、被災された方々に心の安らぎを感じてほしい、そのような願いを込めて『ホスピタルギャラリー能登』を企画しました。2025 年 12 月 13 日（土）、14 日（日）9:30～16:00 市立輪島病院で開催予定です。ぜひ、会場に足をお運びいただき、能登を盛り上げましょう。

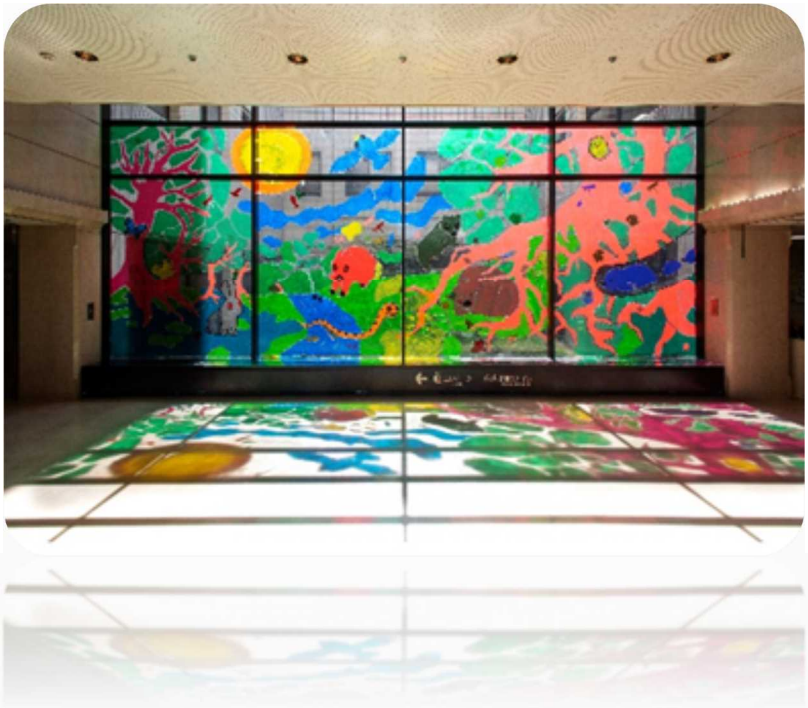
事務局　主査　　後藤　敬仁

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 ホスピタルギャラリー 》

事務局 主査　後藤 敬仁

当院では平成 21 年度より金沢美術工芸大学との連携のもと、医療環境におけるアートの潜在的な可能性を探る研究する「ホスピタリティアート・プロジェクト（HAP)」に取り組んでおり、中庭前の大ガラスにステンドグラス風の装飾を施す「光の回廊シリーズ」、一夜にして病院を美術館にする「ホスピタルギャラリー」を実施しています。



■光の回廊シリーズ

今年の図案は「生きもののザワザワ」と題し、森の草木や生きものたちが共存する様子をイメージしています。制作の過程ではワークショップも開催され、患者さんや職員も思い思いの形にセロハンを切り抜き、一緒に展示していただきました。

■ホスピタルギャラリー

超高齢化社会に突入している今の日本にとって、元気な高齢者が活躍する社会がとても大切であり、元気な高齢者とともに健康をつくるアート『Health-creative Art』をテーマにギャラリーを開催しました。また、そのような背景から今年は石川県老人クラブ連合会と共同し、作品の出品にご協力をいただきました。その結果、過去最多を大幅に更新する 200 点の出品をいただき、盛況のうちに終えることができました。日頃から当院をサポートいただいているクリニックの先生方からも多数の御出品をいただき、本当にありがとうございました。

《 子宮頸がん検診について 》

産婦人科　科長　金谷　太郎

当院では令和７年度より、特定健診を含む金沢市すこやか検診の対応を開始しました。従来は、多くの方に検診後の精査・加療目的に当院へ紹介受診いただきましたが、地域の皆さまの健康づくりを支えるため幅広い検診項目に対応する体制を整えています。本年度は金沢市および医師会と連携して準備を進め、来年度以降は年度当初から積極的な受け入れを行ってまいります。

筆者は産婦人科医として子宮頸がん検診に深くかかわってきました。我が国の子宮頸がん罹患者数は 10,690 人、罹患率は 10 万人当たり 16.6 人（2021 年国立がん研究センター統計）と報告されていますが、前がん病変の罹患率はさらに多いことが知られています。子宮頸部異形成と呼ばれる前がん病変はパピローマウィルス（HPV）の感染が主な原因であり大多数は自然治癒しますが、進行すると手術が必要になることがあります。子宮頸がん検診の目的は、がんに進行する前の段階で異常を発見することにあり、本人の命を救うだけでなく少子化対策の観点からも極めて重要な意義を持っています。

子宮頸がんの予防には、検診による早期発見に加えてワクチン接種による HPV 感染予防も効果的です。HPV ワクチンの定期接種対象者は 12～16 歳の女性であり、当院でも接種を強く推奨しておりますので副反応などの不安がある方は是非相談にお越しください。なお、ワクチンを接種した場合でも 100%の予防効果が得られるわけではありません。そのため接種の有無にかかわらず、20 歳以上の女性は子宮頸がん検診を受けることが大切です。すこやか検診はもちろん、集団検診、人間ドック、保険診療での診察も含めてどのような形でも構いません。子宮頸がんの予防に向けてぜひ受診にご協力をお願いいたします。

現在、金沢市すこやか検診では ICT 化を進めています。将来的には、検診データベースの整備を進め、細胞診から HPV プライマリー検診への移行、AI による細胞像の画像認識の実用化、そして HPV ワクチン接種率の向上が実現すれば、子宮頸がんと前がん病変の患者数が劇的に減少する日も、そう遠くはないかもしれません。

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

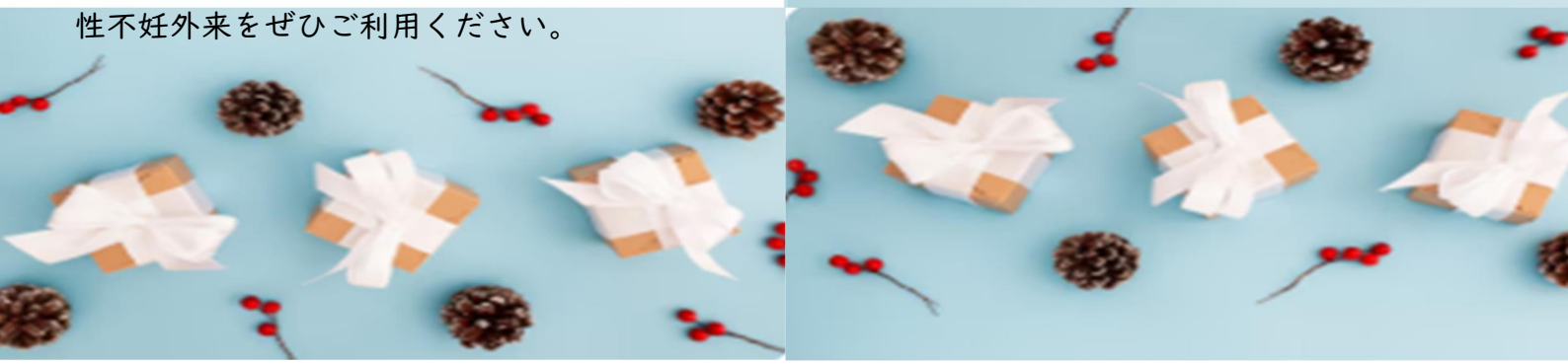
《 男性不妊症 》

泌尿器科　医長　飯島　将司

皆さんこんにちは、金沢市立病院泌尿器科の飯島と申します。

今回は私の専門である男性不妊症について述べさせて頂きたいと思います。男性不妊症の話の前に日本が直面している少子化問題について少しお話ししたいと思います。日本において生まれてくる子供の数は毎年のように減少しており、厚生労働省から前年のデータが公表される６月には毎年ニュースで大きく取り上げられています。今年は初めて出生数が 70 万人を下回ったということで大きく報道されました。それに伴い合計特殊出生率も年々低下傾向で、2024 年は 1.15 と過去最低を録しました。総人口の維持には 2.06 程度必要とされるので、いかに現在の状態が国の存続にとって深刻な問題であるかが分かるかと思います。少子化問題は様々な社会的背景が複雑に影響しているため簡単に解決はできませんが、不妊治療を必要とするカップルが年々増えてきていることも１つの問題と言えるでしょう。不妊に悩むカップルの割合は 10 年以上前には 10 組に１組とも言われていましたが、現在では 5.5 組に１組程度の頻度であると推計されています。実際に生殖補助医療で生まれた子供の割合も年々増加傾向で 2023 年に生まれた子供の９人に１人はなにかしらの生殖補助医療を受けて生まれています。今や不妊治療、生殖補助医療はなくてはならない治療法であるとも言えます。

それでは不妊症とはどのような状態なのでしょうか。WHO の定義によると不妊症とは避妊をせずに定期的な性交渉を 12 ヵ月以上行っているにも関わらず妊娠に至らない状態のことを示します。性交渉によって子宮内で精子と卵子が受精して、着床、妊娠、出産に至るプロセスを考えると、その大半に女性が関わっているため必然的に不妊症の原因に女性因子が占める割合が多くなります。しかし、一方で男性因子も単独で全体の約 25%、男性因子、女性因子ともに認めるものも含めると約 50%近くにもなるため無視できるものではありません。男性不妊症の原因として勃起不全、射精障害などの性機能障害と精巣における精子形成障害がありますが、その 90%以上を精子形成障害が占めます。精子形成障害の原因として最も多い疾患が精索静脈瘤で治療法は手術、特に顕微鏡下手術がゴールドスタンダードとなっています。金沢市立病院では積極的に顕微鏡下手術を行っており安定した成績を残しています。不妊症をきっかけに見つかることが多い疾患ですが、陰嚢の鈍痛、違和感がきっかけで診断されたり、小児の場合、親が陰嚢の異常所見に気づいて診断されたりすることもあります。そのような場合でも適応があれば手術を行うことがあります。もちろんその他の原因も含めて男性不妊症全般について対応していますので、お困りの方がいれば毎週金曜日午後の男性不妊外来をぜひご利用ください。



All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 新規登録医のご紹介 》

まつなが内視鏡･消化器内科クリニック
院長　松永　和大(まつなが　かずひろ)先生

はじめまして、「まつなが内視鏡・消化器内科クリニック」の松永和大と申します。私は出身大学の東京慈恵会医科大学付属病院にて 10 年、石川県立中央病院および金沢医科大学病院にて 10 年勤務した後にクリニックでの診療も経験し、この度 2025 年 11 月に開業しました。病院に勤務していた時は消化器内科、なかでも胆膵疾患を専門に診療させていただき、ERCP や EUS-FNA、EUS-BD などの内視鏡処置や化学療法を担当しておりました。EUS-BD の導入に熱中し、次々と新しいレジメンが登場していた膵がんに対する化学療法を施行していた中で、がんの早期発見の重要性について改めて痛感した経験からクリニックの開業を心に決めました。苦しい、痛い、恥ずかしいといった内視鏡検査のイメージからクリニック受診のハードルが非常に高く、検査が遅れてしまう方も多くいらっしゃいます。私どもスタッフ一同は、患者さまがリラックスし内視鏡検査を楽に受けていただけるクリニックを作りあげ、胃がんや大腸がんで亡くなる方を少しでも減らせるよう地域貢献に励みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

診療科目：消化器内科・内視鏡内科・
　　肛門内科・肝臓内科・内科
住所：〒 921-8042
　　石川県金沢市泉本町 7-7-1
電話番号：076-225-5272
FAX 番号：076-225-5273
ホームページ：https://www.matsunaga-naishikyo.com/

金沢西泉駅前
まつなが内視鏡･消化器内科クリニック

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 給食へのこだわり 》

管理栄養士　太田　由利

近年の病院給食は物価高騰による食材費や光熱費、人件費などの増加や深刻な人手不足により、難しい状態にあるといわれています。そのため、完全調理済み食品といわれるものを温め直して食事として提供するという病院も増えてきているそうです。

しかしながら、当院では時代を逆行するかのごとく、半世紀に渡り伝承されてきたこだわりの調理法が存在します。１つ目はだしです。顆粒だしや市販のパックだしなどは一切使用せず、北海道の高級真昆布と熊本県産の極上うるめを使用しています。作り方は、前日に、冷蔵庫で一晩おいた昆布水を、早朝に火にかけ、うるめ干しを加え沸騰しないようにじっくり煮出すのです。このだしを栄養管理室では「命のだし」と呼び、味噌汁や煮物などいろいろな料理に使用し、薄味でも美味しいと感じいただけるようにしています。よって、化学調味料は一切使用していません。

２つ目は、カレーライスです。実はこのカレーのルゥも伝承されたものです。玉葱を飴色になるまで炒め、小麦粉もバターで炒めて手作りのカレールゥを作ります。この調理法により、美味しいけれど糖質、塩分オフのカレーが出来上がります。その他コロッケやロールキャベツ、シューマイなども手作りです。この人手がない時代にと言われそうですが、以前に委託業者が変更となり他の病院へ行ってしまった調理師さん達が、金沢市立病院の給食調理がやりたいと転職して戻ってきてくれました。調理師さん達は、調理作業ではなく美味しい料理を作りたかったのだそうです。また、私たち栄養士は美味しくて元気になるお食事を患者様にお届けしたいと思っています。この約 50 年間受け継がれてきた金沢市立病院のこだわりの調理方法を次の時代に必ず伝えていきたいと考えています。

《 医療･介護連携に関する研究会　開催報告 》

地域連携室看護師長　谷口　陽子

金沢市立病院にて第２回「医療・介護連携に関する研究会」を開催しました。今回の講演会では、２つのテーマ「在宅医療の現状と多職種連携について」「施設における救急受診の現状」で、大野内科医院　大野秀棋院長、社会福祉法人陽風園陽風園診療所　東藤義公先生を講師に迎え講演が行われました。パネルディスカッションでは、「金沢市における医療、介護、福祉連携の現状」をテーマに、今後の連携強化に向けた活発な意見交換が行われました。情報共有システムの必要性や連携会議の定期開催の重要性、関係機関間の相互理解促進の必要性などが提起されました。髙田事業管理者は、今後、これらの意見を踏まえ、病院と介護施設の連携強化に向けた取り組みを進めていきたいと締めくくりました。

今後の研究会に開催については、金沢市立病院地域連携室メール便などでお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

パネルディスカッション

テーマ
「金沢市における医療、介護、福祉連携の現状」

パネリスト
- 大野内科医院 大野 秀棋 院長
- 社会福祉法人陽風園 陽風園診療所 東藤 義公
- わかくさホームケアクリニック 院長 熊走 一郎
- 金沢市役所 福祉政策課 藤本 敏文 課長
- 熊井 達男 地域連携室副室長

モデレーター
- 村井 久純 副院長兼地域連携室長

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital